

ISSN 0910-2396

野鳥たより

—北海道—

第 93 号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 平成 5 年 9 月 21 日

コウノトリ

石狩生振湿地

5. 5. 29



撮影者 新城 久

美唄の野鳥目録……………草野貞弘……………2

探鳥会報告……………12

探鳥会案内……………14



もくじ

美唄の野鳥目録

草野貞弘

まえがき

日本で一番マガンが集まるところ、そして白鳥の鉛中毒死で不名誉ながら一躍有名になってしまった宮島沼は、美唄市の西の外れにあります。今は消え去ったとはいえ、この沼をはじめとして石狩川が沢山の沼を残した美唄原野には、先祖からの血が受け継がれるのか沢山の水鳥が渡ってきます。雁や白鳥、鴨類は亜種を含めると30種以上、カイツブリや鷺類、鴨、千鳥の仲間などの『水』に係わる鳥が多く見られます。

一方、市の東半分には、その頂上で芦別市と境界を分ける美唄山を代表として、広い山地が形成されています。そこからは美唄川、茶志内川、美唄郁春別川その他無名の小川が流れをつくっています。そこでは、山の鳥、溪谷の鳥が高らかに春を歌います。

かつての原野には、東西南北に防風林が存在するのでも美唄市に独特の景観を見せています。明治27年作成の開拓区画図には、既に、防風林予定地が設定されていました。その地が、余りにも深い泥炭湿地だったことから、戦後まで開拓されずにいたことが幸いして、シラカンバ、ヨウロップトウヒ、ヤチハンノキなどが植林されたのです。林の鳥が生命を育てています。草原の鳥のさえずりが響きわたるのです。

山あり川あり沼がある。草原の広がりもある。こんな自然環境がまだまだ鳥達を呼び寄せているのかも知れません。どんな種類の鳥がいるのか、知られているもの、見たものを書き出して見ました。

鳥についての専門家でもないのに、野鳥目録を作成してみようなどと、大それたことを思い立ったのは、つれづれに記録していた野外ノートを整理してみたからです。幸い当市には、現帯広畜産大学教授、藤巻祐蔵氏が美唄在住の頃の著作『美唄の野鳥』（昭和52年発行美唄市）があります。それによれば、62種類が記載されていますし、当時110種近くの観察が報告されていました。土台があったのです。

ひとりだけの観察記録では、たかがしれています。美唄市には、長年に渡って野鳥の声を録音し続けられている田辺至氏、タンチョウ研究の第一人者の正富宏之氏、

タゲリとコハクチョウ



93. 3. 24

クマゲラ



93. 2. 11

また雁の研究では第一線に行く星子廉彰氏等の観察記録がありました。その貴重な研究資料や提示を受けたものも、この中に含ませて頂きました。共同の成果がこの目録となったことを報告し、謝辞に代えさせていただきます。

亜種も入れて208種類、たったの一度しか見れなかったものも取り上げました。多くの方が良く見れば、もっともっと数が出てくることでしょう。この試みが、たつき台となって、美唄の野鳥リストが完成に近づくことを願ってやみません。

1993年4月

配列の順は、日本鳥類目録に準拠しました。

現住所〒072 美唄市西3条南2丁目2-13

美唄市概略図



美 唄 の 野 鳥 目 録

目・科名／和名／学名	主な棲息地・飛来地	備 考
カイツブリ目 PODICIPEDIFORMES		
カイツブリ科 PODICIPITIDAE		
カイツブリ <i>Podiceps ruficollis</i>	沼、溜池、美唄ダム	夏は各地の沼池で営巣
ハジロカイツブリ <i>Podiceps nigricollis</i>	宮島沼	秋に現れる、小さい
ミミカイツブリ <i>Podiceps auritus</i>	同 上	同上、少ない
アカエリカイツブリ <i>Podiceps grisegena</i>	同 上	希、営巣することもある
カンムリカイツブリ <i>Podiceps cristatus</i>	同 上	オナガガモぐらいの大きさ、稀
コウノトリ目 CICONIIFORMES		
サギ科 ARDEIDAE		
ヨシゴイ <i>Ixobrychus sinensis</i>	沼や川	
アマサギ <i>Bubulcus ibis</i>	沼辺	稀
ダイサギ <i>Egretta alba</i>	沼辺	夏場に出現
チュウサギ <i>Egretta intermedia</i>	沼辺	同上
アオサギ <i>Ardea cinerea</i>	沼辺、石狩川、水田	近年数を増す
コウノトリ科 CICONIIDAE		
コウノトリ <i>Ciconia ciconia</i>	石狩川、水田	稀、夏を過ごす個体もあった
ガンカモ目 ANSERIFORMES		
ガンカモ科 ANATIDAE		
シジュウカラガン <i>Branta canadensis Leucopareia</i>	宮島沼と周辺餌場	毎年1～2羽がマガンに混入
(カナダガン <i>Branta canadensis</i>)	同 上	時に3～4羽来ることがある)
ヒメシジュウカラガン <i>Branta canadensis minima</i>	同 上	稀、マガンに混在単独飛来
コクガン <i>Branta bernicla</i>	同 上	本来は海の雁、時にマガンに混在
ハイイロガン <i>Anser anser</i>	同 上	稀
マガン <i>Anser alubifrons</i>	宮島沼と周辺餌場	日本中から春に集結、秋にも来る
カリガネ <i>Anser erythropus</i>	同 上	マガン類似、1～2羽混入
ヒシクイ <i>Anser fabalis serrirostris</i>	同 上	美唄では極少数しか見れない
オオヒシクイ <i>Anser fabalis middendorffii</i>	沼池	雁の中では最も大きい、数百羽
ヒメヒシクイ <i>Anser fabalis curtus</i>	宮島沼と周辺餌場	滅多に來ない珍種
ハクガン <i>Anser caerulescens</i>	同 上	稀
サカツラガン <i>Anser cygnoides</i>	同 上	稀
(コブハクチョウ) <i>Cygnus olor</i>	同 上	大沼やウトナイ湖から稀に來る
オオハクチョウ <i>Cygnus cygnus</i>	沼や水田	数箔羽、春は沼で餌をねだる

目・科名／和名／学名	主な棲息地・飛来地	備 考
コハクチョウ <i>Cygnus columbianus jankowskii</i>	同 上	数千羽が通過、早春田に雪塊のよう
アメリカコハクチョウ <i>Cygnus columbianus columbianus</i>	同 上	コハクチョウ群に混在、珍しい
オンドリ <i>Aix galericulata</i>	同 上、溜池	光珠内の池にも見られる
マガモ <i>Anas platyrhynchos</i>	宮島沼など、川	グエーグエーと鳴く
カルガモ <i>Anas poecilorhyncha</i>	同 上	夏に一部が営巣する
コガモ <i>Anas crecca</i>	同 上	ハトぐらいの大きさ
トモエガモ <i>Anas formasa</i>	同 上	少ない
ヨシガモ <i>Anas falcata</i>	同 上	5月半ば頃までもいる
オカヨシガモ <i>Anas strepera</i>	同 上	稀
ヒドリガモ <i>Anas penelope</i>	同 上	春も秋も立ち寄る
アメリカヒドリ <i>Anas americana</i>	同 上	稀
オナガガモ <i>Anas acuta</i>	同 上	数多く、1万羽以上も来る
シマアジ <i>Anas querquedula</i>	同 上	田植え頃、水田に入ることもある
ハンビロガモ <i>Anas clypeata</i>	同 上	秋は体の色の特徴が出ていない
ホンハジロ <i>Aythya ferina</i>	同 上	秋、数十羽程度
キンクロハジロ <i>Aythya fuligula</i>	同 上	潜水鴨、夏を過ごすものもいる
スズガモ <i>Aythya marila</i>	同 上	キンクロハジロ類似、少ない
コオリガモ <i>Clangula hyemalis</i>	同 上	稀
ホオヅロガモ <i>Bucephala clangula</i>	宮島沼、石狩川	少ない、冬の石狩川に比較的多い
ミコアイサ <i>Mergus albellus</i>	同 上	冬羽の雄はパンだ模様
ウミアイサ <i>Mergus serrator</i>	同 上	稀
カワアイサ <i>mergus merganser</i>	同 上	秋遅くに宮島沼に数百羽飛来する
ワシタカ目 FALCONIFORMES		
ワシタカ科 ACCIPITRIDAE		
ミサゴ <i>Pandion haliaetus</i>	沼と近くの林	稀
ハチクマ <i>Pernis apivorus</i>	専大裏	稀
トビ <i>Milvus migrans</i>	防風林や農耕地、市街地にも	
オジロワシ <i>Haliaeetus albicilla</i>	沼辺、川辺	早春に見られる
オオワシ <i>Haliaeetus palagicus</i>	同 上	同上、稀
チョウセンオタカ <i>Accipiter gentilis schvedowi</i>	防風林	少ない
ツミ <i>Accipiter gularis</i>	防風林	秋口に見られる
ハイタカ <i>Accipiter nisus</i>	防風林、林	時に人里で餌台の小鳥を狙う
ケアシノスリ <i>Buteo lagopus</i>	同 上	稀
ノスリ <i>Buteo buteo</i>	原野・河川敷、防風林	カラス大、尾が短い
ハイロチュウヒ <i>Circus cyaneus</i>	同 上	稀

目・科名／和名／学名	主な棲息地・飛来地	備 考
チュウヒ <i>Circus aeruginosus</i>	沼辺や原野・河川敷	ヨシ原で見る、トビより小さい
ハヤブサ科 FALCONIDAE		
シロハヤブサ <i>Falco rusticolus</i>	原野林	稀、冬に飛来
ハヤブサ <i>Falco peregrinus</i>	防風林	少ない
チゴハヤブサ <i>Falco subbuteo</i>	原野林、郊外	林のカラスの巣跡などに営巣する
コチョウゲンボウ <i>Falco columbarius</i>	農耕地	冬から春先まで、数は少ない
チョウゲンボウ <i>Falco tinnunculus</i>	防風林近くや耕地	ハト大、ホバーリングする
キジ目 GALLIFORMES		
ライチョウ科 TETRAONIDAE		
エゾライチョウ <i>Tetrastes bonasia</i>	森林	稀
キジ科 PHASIANIDAE		
ウズラ <i>Coturnix coturnix</i>	草原、石狩川、河川敷	姿より鳴き声で存在を確認できる
コウライキジ <i>Phasianus colchicus karpowi</i>	原野、防風林などの疎林	冬場には人家近くに来ることも
ツル目 GRUIFORMES		
クイナ科 RALLIDAE		
ヒクイナ <i>Porzana fusca</i>	川や沼辺	稀
バン <i>Gallinula chloropus</i>	沼	少ない、黒い体、額が赤い
オオバン <i>Fulica atra</i>	同上	額は白くカラス大、夏も見れる
チドリ目 CHARADRIIFORMES		
チドリ科 CHARADRIIDAE		
コチドリ <i>Charadrius dubius</i>	川原、砂利場	黒い仮面をかぶっているような姿
イカルチドリ <i>Charadrius placidus</i>	沼の干潟	稀
メダイチドリ <i>Charadrius mongolus</i>	川や沼の干潟	キュッ、ピュルルと鳴く
ムナグロ <i>Pluvialis dominica</i>	同上	背中が少し黄色のウズラ模様
ダイゼン <i>Pluvialis squatarola</i>	同上	ビューイビューイと鳴く
タゲリ <i>Vanellus vanellus</i>	水田、湿地	独特の飾り羽や金属光沢が美しい
シギ科 SCOLOPACIDAE		
キョウジョシギ <i>Arenaria interpres</i>	河川や沼の干潟	稀
トウネン <i>Calidris ruficollis</i>	同上	飛びながらキリッチリッと鳴く
ウズラシギ <i>Calidris acuminata</i>	同上	
ハマシギ <i>Calidris alpina</i>	河川や沼の干潟	鳴き声ビューウィッと聞こえる
オバシギ <i>Calidris tenuirostris</i>	同上	稀
ツルシギ <i>Tringa erythropus</i>	河川や沼の干潟	チュイッと鳴く

目・科名／和名／学名	主な棲息地・飛来地	備 考
アカアシギ <i>Tringa totanus</i>	同 上	キョリービヨビヨビヨ
アオアシギ <i>Tringa nebularia</i>	同 上	キョーキョーンと2声
クサシギ <i>Tringa ochropus</i>	同 上	
タカブシギ <i>Tringa glareola</i>		
キアシギ <i>Tringa brevipes</i>	河川や沼の干潟	ビューイッ
イソシギ <i>Tringa hypoleucos</i>	同 上	チービビビ
ソリハシギ <i>Xenus cinereus</i>	同 上	稀
オグロシギ <i>Limosa limosa</i>	同 上	
オオソリハシギ <i>Limosa lapponica</i>	河川や沼の干潟	稀
ヤマシギ <i>Scolopax rusticola</i>		
タシギ <i>Gallinago gallinago</i>	原野、湿地	オオジシギ類似
オオジシギ <i>Gallinago hardwickii</i>	原野、河川敷、防風疎林	原野で営巣、カミナリシギとも
セイタカシギ <i>Himantopus himantopus</i>	河川や沼の干潟	稀
カモメ科 LARIDAE		
ユリカモメ <i>Larus ridibundus</i>	沼や水田	春、秋渡り途中に寄る
セグロカモメ <i>Larus argentatus</i>	沼	稀
オオセグロカモメ <i>Larus schistisagus</i>	沼	時に迷鳥として現れる
シロカモメ <i>Larus hyperboreus</i>	沼	希
カモメ <i>Larus canas</i>	沼	数少ない
ウミネコ <i>Larus crassirostris</i>	沼	稀
アジサシ <i>Sterna hirundo</i>	沼	数羽、秋のほうが多い
ウミスズメ科 ALCIDAE		
エトロフウミスズメ <i>Aethia cristatella</i>	(原野地帯)	冬の嵐の後に迷い込む
ハト目 COLUMBIFORMES		
ハト科 COLUMBIDAE		
キジバト <i>Streptopelia orientalis</i>	森、防風林	冬は南方へ渡る
アオバト <i>Sphenurus sieboldii</i>	林や森	鳴き声が悲しそうに聞こえる
(ドバト) <i>Columba livia</i>	人家など	飼育種が野生化したもの
ホトトギス目 CUCULIFORMES		
ホトトギス科 CUCULIDAE		
ジュウイチ <i>Cuculus fugax</i>	森	鳴き声が十一と聞こえる
カッコウ <i>Cuculus canorus</i>	森、防風林	雌の鳴き声はヒクイナのような
ツツドリ <i>Cuculus saturatus</i>	同 上	ポッポッポとよく響く鳴き声

目・科名／和名／学名	主な棲息地・飛来地	備 考
フクロウ目 STRIGIFORMES		
フクロウ科 STRIGIDAE		
シロフクロウ <i>Nyctea scandiaca</i>	防風林地帯	非常に稀
トラフズク <i>Asio otus</i>	森、防風林	
コノハズク <i>Otus scops</i>	同 上	
アオバズク <i>Ninox scutulata</i>	同 上	
エゾフクロウ <i>Strix uralensis japonica</i>	同 上	
ヨタカ目 CAPRIMULGIFORMES		
ヨタカ科 CAPRIMULGIDAE		
ヨタカ <i>Caprimulgus indicus jotaka</i>	林、森	夜、鳴き声キョッキョッと響く
アマツバメ目 APODIFORMES		
アマツバメ科 APODIDAE		
ハリオアマツバメ <i>Chaetura caudacuta</i>	川、沼の上空など	空高く群舞するのを見ることも
キタアマツバメ <i>Apus pacificus pacificus</i>	川辺、水田地帯	川辺に沿った地帯などの上空
ブッポウソウ目 CORACIIFORMES		
カワセミ科 ALCEDINIDAE		
エゾヤマセミ <i>Ceryle lugubris pallida</i>	上流の川辺	美唄川上流にも少数
アカショウビン <i>Halcyon coromanda</i>	山地の川辺	稀
カワセミ <i>Alcedo atthis</i>	河川、沼、水路	土崖に巣穴を掘る
キツツキ目 PICIFORMES		
キツツキ科 PICIDAE		
アリスイ <i>Jynx torquilla</i>	川辺や沼辺の林	クィクィクィクィッ…と鋭く鳴く
ヤマゲラ <i>Picus canus</i>	森や林、防風林、冬は里にも	日本では本道だけに棲む 緑の鳥
クマゲラ <i>Dryocopus martius</i>	深山、冬には防風林にも	稀、カラスほどの黒く大きい鳥
エゾアカゲラ <i>Dendrocopos major japonicus</i>	森や林、防風林	冬には街路樹にも来る
エゾオオアカゲラ <i>Dendrocopos leucotos subcirris</i>	同 上	胸の縦縞でアカゲラと区別できる
コアカゲラ <i>Dendrocopos minor</i>	同 上	美唄では少ない
エゾコゲラ <i>Dendrocopos kizuki ijimae</i>	森林、防風林にも	シマエナガなどと混在することも
スズメ目 PASSERIFORMES		
ヒバリ科 ALAUDIDAE		
ヒバリ <i>Alauda arvensis</i>	草地、畑	開けた草地で営巣

目・科名／和名／学名	主な棲息地・飛来地	備 考
ツバメ科 HIRUNDINIDAE		
ショウドウツバメ <i>Riparia riparia</i>	川や沼の上空	河岸の崖に営巣（コロニー）
ツバメ <i>Hirundo rustica</i>	市街上にも	少ない
イワツバメ <i>Delichon urbica</i>	川近く	少ない
セキレイ科 MOTACILLIDAE		
キセキレイ <i>Motacilla cinerea</i>	河原	少ない（西日本に多い）
ハクセキレイ <i>Motacilla alba</i>	河原、耕地、市街地	数多い
セグロセキレイ <i>Motacilla grandis</i>	河原や耕地	ハクセキレイより大きい
ビンズイ <i>Anthus hodgsoni</i>	疎林地	夏鳥、秋など平地でも見られる
タヒバリ <i>Anthus spinoletta</i>	水田などの耕地	秋や春先に地上で見れる
ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE		
エゾヒヨドリ <i>Hypsipetes amaurotis hensoni</i>	防風林、人家近く	冬は給餌台によく来る
モズ科 LANIIDAE		
モズ <i>Lanius bucephalus</i>	原野の疎林	市街地に来ることも
アカモズ <i>Lanius cristatus</i>	同 上	河川敷に多い
オオモズ <i>Lanius excubitor</i>	防風林など	冬に飛来、稀
レンジャク科 BOMBYCILLIDAE		
キレンジャク <i>Bombycilla garrulus</i>	人里近くの林、ナナカマドの街路樹	給餌台にも来る冬鳥
ヒレンジャク <i>Bombycilla japonica</i>	同 上	同上、数は少ない
カワガラス科 CINCLIDAE		
カワガラス <i>Cinclus pallasii</i>		
ミソサザイ科 TROGLODYTIDAE		
ミソサザイ <i>Troglodytes troglodytes</i>	溪谷沿い、人里にも	春のさえずりは大きく美しい
イワヒバリ科 PRUNELLIDAE		
エゾカヤクグリ <i>Prunella rubida fervida</i>		
ヒタキ科 MUSCICAPIDAE		
ツグミ亜科 TURDINAE		
ノゴマ <i>Erithacus calliope</i>	原野、河川敷	美声、雄の喉は赤い
コルリ <i>Erithacus cyane</i>	山地の藪	美声
ルリビタキ <i>Tarsiger cyanurus</i>	東明公園など	
ジョウビタキ <i>Phoenicurus aureus</i>	稀	
ノビタキ <i>Saxicola torquata</i>	原野、河川敷	比較的人を恐れない
マミジロ <i>Turdus sibiricus</i>		
トラツグミ <i>Turdus dauma</i>	森や林	夜の怪物《ヌエ》の正体
クロツグミ <i>Turdus cardis</i>	同 上	鳴き声大きく美声
アカハラ <i>Turdus chrysolaus</i>	林地、原野の疎林	鳴き声キョロンキョロンと二声

目・科名／和名／学名	主な棲息地・飛来地	備 考
シロハラ <i>Turdus pallidus</i>		
ツグミ <i>Turdus naumanni</i>	原野、林、耕地	冬は市街地の餌台にもやってくる
ウグイス亜科 SYLVIINAE		
ヤブサメ <i>Cettia squameiceps</i>	樹林地の藪	シンシシ…と細く高く鳴く
ウグイス <i>Cettia diphone</i>	林、森	
エゾセンニュウ <i>Locustella fasciolata</i>	原野、河川敷、林の縁	ジョッピン掛けたかと聞こえる
シマセンニュウ <i>Locustella ochotensis</i>	同 上	
マキノセンニュウ <i>Locustella lanceolata</i>	同 上	秋の虫に似た鳴き声
コヨシキリ <i>Acrocephalus bistrigiceps</i>	原野、ヨシ原	6月の草原でけたたましくさえずる
オオヨシキリ <i>Acrocephalus arundinaceus</i>	同 上	鳴き声で《行行子》とも呼ばれる
メボソムシクイ <i>Phylloscopus borealis</i>		
エゾムシクイ <i>Phylloscopus tenellipes</i>	森林、時には防風林	
センダイムシクイ <i>Phylloscopus occipitalis</i>	防風林、林	チョチョビーと鳴く
クイタダキ <i>Regulus regulus</i>	森林	日本で最小の鳥
ヒタキ亜科 MUSCICAPINAE		
キビタキ <i>Ficedula narcissina</i>	原野や低木地	雄の黄色の体が目立つ
オオルリ <i>Cyanoptila cyanomelana</i>	山地の溪谷沿い	極めて美声、日本3鳴鳥の一つ
エゾビタキ <i>Muscicapa griseisticta</i>	防風林など	
コサメビタキ <i>Muscicapa latirostris</i>	防風林、森	
エナガ科 AEGITHALIDAE		
シマエナガ <i>Aegithalos caudatus japonicus</i>	防風林、森	シジュウカラなどのカラ類と混在も
シジュウカラ科 PARIDAE		
ハシブトガラ <i>Parus palustris</i>	森、防風林、人里にも	シジュウカラなどと混在すること
コガラ <i>Parus montanus</i>	森、防風林	
ヒガラ <i>Parus ater</i>	同 上	
ヤマガラ <i>Parus varius</i>	同 上	
シジュウカラ <i>Parus major</i>	森、防風林、人里にも	数多い
ゴジュウカラ科 SITTIDAE		
シロハラゴジュウカラ <i>Sitta europaea asiatica</i>	森、時には人里にも	人を余り恐れない
キバシリ科 CERTHIIDAE		
キバシリ <i>Certhia familiaris</i>	森、防風林	目立たない色、螺旋状に幹を登る
メジロ科 ZOSTEROPIDAE		
メジロ <i>Zosterops japonica</i>	明るい森地	群れをつくっている
ホオジロ科 EMBERIZIDAE		
ホオジロ <i>Emberiza cioides</i>	原野、河川敷、耕地	《一筆計上仕る》と鳴くとか
ホオアカ <i>Emberiza fucata</i>	草原、原野、耕地	草地で営巣、美声

目・科名／和名／学名	主な棲息地・飛来地	備 考
カシラダカ <i>Emberiza rustica</i>	疎林、草原、河川敷	秋と春に見られる
ミヤマホオジロ <i>Emberiza elegans</i>	同上	稀
シマアオジ <i>Emberiza aureola</i>	原野、河川敷	数は少ない、美明湿原は穴場
アオジ <i>Emberiza spodocephala</i>	原野、河川敷、林	秋には大群をつくる
クロジ <i>Emberiza variabilis</i>	山地、森	
オオジュリン <i>Emberiza schoeniclus</i>	原野、河川敷	
ユキホオジロ <i>Plectrophenax nivalis</i>	原野	稀に群でくる
アトリ科 FRINGILLIDAE		
アトリ <i>Fringilla montifringilla</i>	林、人里にも	
コカワラヒワ <i>Carduelis sinica minor</i>	草原、樹林地	初秋に群れる
マヒワ <i>Carduelis spinus</i>	林、原野林	ハンノキの実好き、早春人里にも
ベニヒワ <i>Acanthis flammea</i>	林、草原	頭に紅色、雄は赤い腹
ハギマシコ <i>Leucosticta arctoa</i>	森	
オオマシコ <i>Carpodacus roseus</i>	東明公園	稀
ギンザンマシコ <i>Pinicola enucleator</i>	林、街路樹	スズメ寄り少し大きい冬鳥
イスカ <i>Loxia curvirostra</i>	森林、市街地にも	くちばしが食い違っている
ベニマシコ <i>Uragus sibiricus</i>	草原や河川敷	赤い鳥、ウドの実を好む
ウソ <i>Pyrrhula pyrrhula</i>	針葉樹林、人里	冬には市街地にも
イカル <i>Eophona personata</i>	林	
シメ <i>Coccothraustes coccothraustes</i>	林、畑地	ヒマワリの実大好き
ハタオリドリ科 PLOCEIDAE		
ニュナイスズメ <i>Passer rutilans</i>	原野林、林、麦畑	林で営巣、夏には群れをつくる
スズメ <i>Passer montanus</i>	人家近く	
ムクドリ科 STURNIDAE		
コムクドリ <i>Sturnus philippensis</i>	林、人里林	姿も鳴き声もムクドリより綺麗
ムクドリ <i>Sturnus cineraceus</i>	人里近くの林	秋に大群をつくる
カラス科 CORVIDAE		
ミヤマカケス <i>Garrulus glandarius brandtii</i>	林、防風林	物まね鳴きをする
ハシボソカラス <i>Corvus corone</i>	原野や人里	鳴き声が濁っている
ハシブトカラス <i>Corvus macrorhynchos</i>	市街地	カーカーと澄んだ声



なつかしい
風景との出逢い

5. 5. 23

久保田 和子

鶴川の探鳥会は干潟と牧場であった。早々と駅前に到着の牧野さんと私、車外へ出ると寒いものの、うす曇の上雨、こんな日にどんな鳥たちに出逢えるかな?と心配。駅に集まった人たちと街はずれの車置き場へと行く。

牧場の見える所の角から観察を始める。ガスがかかりあたりはもやっている。うすぼんやりと牛舎の前に堆肥の上あたりが見えてきた。畠の上をピーチク、ピーチクとひばりの声とパタパタと上下しながら飛ぶ様子は、私にはタイムトンネルにスリッパしたみたいと思え、つい見とれてしまった。「いるいる。」の声に我に振り返りみんなの方へ移動、だが私には、さっぱり見えない。大きな双眼鏡で見せていただき黒と白、ダイダイのキョウジョシギを確認、何ともいえないコントラストである。「あれ、あれ。」の声に指さされた方に、さくにすっくり立っているきじがもやの中に見えた。堆肥の裏側に移動しているみんな、急いで行くと、いるわいるわ、シギの仲間がえさをついばんで群れている。

放牧されている馬を向こうに見ながら、つばめの飛び交う様子を観察していると、向うから不思議そうな顔の馬たちが急いでやってくる。何があったのかとわれもわれもと近付いてくるではないか。本物のやじ馬を尻目につばめの観察、「やじ馬の語源はここからか?」と言っていると、さくに止ったつばめが交尾を始めた。始めて見た。

牧場から草原へ移動、ひばりが盛んに飛んでいる。

川の濁流の音を聞き乍ら進むとシロチドリが居ると言うが見えにくい。「浜ちどりでないの。」と言う私に「あれは歌の中だけ。」との答え、「ウミネコはのどをなげると喜ぶよ。」と言う人もいて面白い。一斉に飛び立つ鳥の何ともいえない美しさ。寒さのもやの中でも、いろいろな鳥にめぐり逢えうれしかった。そんな気持ちでいる時に「感想文を。」と言われ、エトビリカの切手につられて書くはめになった私。その後、シギ類を見たが、見わけられたのは、口ばしのちがいが位だった。

帰りにチュウヒのゆうゆう飛ぶ様子に満足して、堆肥の所に帰り、たくさんキョウジョシギを見た。うす陽が少しさしてくると、道路の向こうに、キツネとカラスのカップル。敵視するでもなくのんびりと戯れていて微笑ましい。鳥の確認、随分いたんだなあ、見て分かるまで、何回も参加し覚えようと初心者私。自然の中に解

けこんで、昔懐かしの風景に出逢え感無量。大切にしないでとは思。

追伸 終了してから牧野さんとアカショウビンを見た。新緑の中で飛んでいた赤い鳥ヒキコロローの声に二人で「やった。」と子供の様によるこんだのは言うまでもない。

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、チュウヒ、チゴハヤブサ、コガモ、コウライキジ、ダイゼン、コチドリ、シロチドリ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、ホウロクシギ、ツルシギ、キアシシギ、キョウジョシギ、オオヅシギ、ミユビシギ、ウミネコ、オオセグロカモメ、シロカモメ、ユリカモメ、アツサシ、キジバト、カッコウ、ヒバリ、ショウドウツバメ、ツバメ、ハクセキレイ、ノビタキ、アオヅ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト 以上36種

〔参加者〕石橋和子、井上公雄、小野木弘司・幸子、久保田和子、佐藤ひろみ、佐藤幸典、佐藤勇、田中志司子、武沢和義・佐知子、戸津高保・以知子、成澤里美、野坂英三、浜田強、広川淳子、早川いくこ、牧野洋子、宮田貞子、三浦美重子、山田良造、渡辺栄子 以上23名

〔担当幹事〕山田良造、野坂英三

植苗探鳥会に参加して

5. 6. 13 齊藤 美耶子

その日は朝から風が強かった。雨に当たらなかっただけでも幸いだったと思う。三船さんご夫婦に連れられて始めて参加した私は、ベテラン揃いの愛護会の皆さまにすっかりお世話になってしまった。

新緑に向かって歩き始めた私たちをエゾセンニュウ、アオヅ、センダイムシクイたちが迎えてくれる。遠くに聞こえるカッコウの鳴き声が、初夏の訪れを告げていた。

草原に入ると、マキノセンニュウの声もする。大きい羽音を立ててキジバトが飛び立っていった。シジュウカラはツビツビフィフィと呼んでいる。

ジョウジョウジョウ、ジョリジョリ、ジョッピリピリとなんとも楽しく歌っているのはコヨシキリ。草原のジャズメン という愛称を持っているという。ドラムにシンバル、ジャズピアノ、何役もこなして張り切っているのだろう。

何と言っても今日を彩ったのはシマアオヅである。右に左に風の吹きしきる中、小枝に掴まって鳴いていた。ヒョヒョヒー、ヒョヒョヒー。優しくはかなげに歌うその清らかな歌声は、透明に澄み切っていてどこか哀しい。小さな身体一杯に必死に歌いあげているようだ。細かくふるえているその胸は、はっとするほど鮮やかな山吹色をしていた。それはどんな大輪の花にも見劣りのしない美しさだった。

真紅の喉も可愛いノゴマに会えた人も多かったですら

いのに、私の前には来てくれなかった。

湖の側まで行くと、エサ台を大型にしたようなターザンの別荘になるのかと思う奇妙なモニュメントがあった。飛来するコウノトリが集まりするのを期待して置いてあると言う。残念ながらまだ一羽も訪れていないそうだ。いつかここでコウノトリに会ってみたいものだ。

出会えた鳥の数は少なかったけれど、とても楽しかった。またぜひ参加したいと思っている。

〒005 南区真駒内緑町3-4 3-1105

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、コブハクチョウ、キジバト、カッコウ、ツツドリ、コゲラ、ショウドウツバメ、ハクセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、ノゴマ、ノビタキ、ヤブサメ、ウグイス、エゾセンニュウ、マキノセンニュウ、コヨシキリ、センダイムシクイ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ホオアカ、シマアオジ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、スズメ、ハシブトガラス、ハシブトガラス 以上30種

〔参加者〕後藤義民、清水朋子、山田良造、牧野洋子、今村三枝子、斉藤美耶子、竹内強、白澤昌彦、大町欽子、西川喜久世、香川稔、田中志司子、早川いくこ、永島良郎・トキ江、長谷川稔、服部光博、森田新一郎、小川秀子、戸津高保・以知子、野口正男・キヨ、佐藤ひろみ、飯山、柳沢信雄・千代子、三船喜克・幸子、井上公雄、野坂英三、千葉広、武沢和義、久田伸一、山田としえ、高柳国雄、作間教子、大嶋喜美子 以上38名

〔担当幹事〕井上公雄、永島良郎

東米里

5. 6. 20 戸津高保

今日の東米里は、ずっと本格的な雨降り。参加者は8名。どうなることやらと歩き始めたら、道路の両脇の棒くいにオオジシギが止って鳴く。また歩いている私達の頭の上をザザザザとディスプレイ。電柱にカッコウのカップルが止ったり飛んだり、アカモズが灌木に現れる。草原ではノビタキの親子、横溝ではマガモの親子。オヤオヤ、バードウォッチングらしくなってきたな…といった感じでした。雨と寒さのせい、ノゴマやアリスイが見られなかったのは残念でした。

東米里も年々、探鳥コースに建物や工事跡が多くなってきます。胸が痛くなりますねー。

〒062 豊平区旭町4丁目1-14

〔記録された鳥〕アオサギ、マガモ、オオジシギ、キジバト、カッコウ、ヒバリ、ハクセキレイ、アカモズ、モズ、ノビタキ、エゾセンニュウ、アキノセンニュウ、コヨシキリ、ホホアカ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、コムドリ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシブトガラス

以上21種

〔参加者〕白沢昌彦、戸津高保・以知子、武沢和義・佐知子、牧野洋子、佐藤ひろみ、鎌田博 以上8名

〔担当幹事〕武沢和義、戸津高保

夜の探鳥会に参加して

5. 6. 5 長谷川 稔

野鳥の姿を見ても、声を聴いてもなかなか種類が判別できない初心者ですが、夜の探鳥会に今回初めて参加させて頂きました。

定刻の15分程前に集合場所の平和の滝駐車場に到着、気温も夕方にしてはそれ程低くなく、先住民の蚊も元気で大歓迎を受けてしまいました。

本日の目的のコノハズク、ヨタカ、ヤマシギの声に出会うために、元気いっぱい総勢20数名のメンバーが、6時過ぎに手稲山登山道の入口から1.5km位先の目的地目指して出発、お寺を過ぎてすぐに美声が左右から聞こえて来るのですが、残念ながら初心者には種別の判別が難しく、リーダーの方々に聞き分けていただき、クロジ、キビタキ、アオジ、コルリ、ヤブサメ等と説明を受けましたが、私はキビタキ、コルリ、ヤブサメを辛うじて聞き分け出来た程度で、それもリーダーの方々の説明があったの判別で、単独で聴いたらどこまで聞き分け出来るやら……

途中の砂防ダムで、焚火をしている若い釣り人を双眼鏡で観察し(びっくりしたと思います)、マガモの雄2羽を見ながら30分位で目的地に到着。日暮れまで待つこと数10分、お目当てのイヤお耳当てのコノハズクがなかなか鳴かず、7時30分過ぎにやっと遠くで鳴き出し、一同聞き耳をたてて確認しましたが、なかなか近くに寄って来ずその内にマミジロ、ジュウイチ、ヨタカの声が聞こえ、ヤマシギのシルエットをかるうじて確認して、出発地の駐車場へと戻りました。

本日の出現数は13種で、まれに見る不作との事誠に残念でしたが、私にとってはマミジロ、ジュウイチとヨタカは声のみですが初めての出会いとなり、楽しく辛い探鳥会となりました。

〒062 豊平区平岸1-6-1 平岸スターハイツB2-502

〔記録された鳥〕マガモ、ヤマシギ、ジュウイチ、コノハズク、ヨタカ、コルリ、マミジロ、クロツグミ、ヤブサメ、ウグイス、キビタキ、アオジ、クロジ 以上13種

〔参加者〕千葉広、佐藤ひろみ、佐々木武巳、牧野洋子、久保田和子、工藤孝子、久田伸一、永島良郎・トキ江、戸津高保・以知子、工藤政之助、吉田稔治、野坂英三、浦崎禮子、竹内強、武沢和義・佐知子、長谷川稔、大町欽子、渡辺サチコ、高野 以上22名

福移の探鳥会

5. 7. 4 池田 みちえ

初めて足を運ぶ所でもあり、予定の時刻に迷わず到着出来るか不安であったが、スッキリ晴れあがった。良いお天気に助けられ、ようやく間に合いホッと一息。緑のなか、オニシモツケだろうか、白い花が所々に軽やかにゆれ、フランス菊の咲く農道を土手に向かって歩き出す。農家の人の牧草刈りを左手に見、ドーム型のプレハブの建つ畑地の中に、なにかがいらしい(ハクセキレイ)そして右手の墓地の土手寄りの棒木の先にも。でも私の双眼鏡の中にはなかなか入ってこない。肉眼で見ると全部赤茶っぽい小鳥に見える。野鳥に関する知識は皆無に等しくさすが草原の鳥というわけか、観察するのに距離がありすぎる。と不服にも思い、感心もし、双眼鏡が悪いのでは、とあきらめているとベテランの方は、鳴き声だけでも鳥の姿を追い楽しんでいらっしゃる。いつの日かこの魅力的なさえずりの主をしっかりとこの目でとらえられる時がきたなら、それはまた楽しみなこと。期待を残しながら土手をのぼりきると、思いがけない視界が広がった。土手添いに、白ツメ草の香りが満ちるなか、流れの方向もさだかでないほどゆったりとした石狩川が川

巾広くひろがり、牧草地から運ばれたという牧草の種子が背丈程にも伸び、ほんのり赤紫に染まった穂先が一面風が吹き渡ってゆくたびに、うねり刻々色を変えてゆく様は本当に見事。しばらくうっとりみとれてしまった。のどかな鳥達のさえずりに包まれ、鳥達と共に草原を渡る風に身をまかせ、おだやかなお太陽の下、いつまでもこの自然が変わることなく残されていてほしいと願わずにはいられない。幼い頃のなつかしい田舎の風景に重ね合わせて、今素晴らしい宝物を又ひとつ取りもどしている。会員の方やお世話の方に導かれ。感謝。牧草をかきわけて川岸へ。教えられて対岸を見るとツバメのコロニーが、まるで団地の窓のように並んで見える。その川岸をつたい、再び土手へ戻る先をヒバリがチョコチョコ道案内。土手づたいに歩くなか、アカモズが棒棒に止まっているのを望遠鏡で始めて見せて頂く。更に、アオサガかコウノトリかとの声に目差す方向を探すが、やっぱり追いかけられず残念。おぼつかないウォッチングながら、すっかりこの環境に魅せられた私は、毎日でも通いたい心境ですが、この原稿を書き上げるまで、おあづけと、次の探鳥会を待ち遠しく楽しみにしているところです。〒005 南区真駒内緑町4丁目1-9-123

〔記録された鳥〕32種 〔参加者〕36名



〔ウトナイ湖〕

平成5年11月14日(日)

南へ渡る途中のヒシクイ、オオハクチョウ、カモ類等を観察します。彼等を追ってオジロワシ、チュウヒなども見られます。

またネイチャーセンターではカラ類やケラ類がエサ台に姿を見せるでしょう。一部長くつが必要なお所があります。

集合=9:40 ウトナイレイクホテル湖畔側

交通=道南バス(苫小牧行)新千歳空港9:20

ウトナイレイクランド前下車

〔小樽港〕

平成5年12月12日(日)

小樽の海でシノリガモ、コオリガモ、ホオジロガモなどの冬ガモが見られます。それと共にカイツブリ類、ウミスズメやウミガラスも割合見られる事が多いようです。海からの風が強い時もあります。防寒に配慮して下さい。

小樽駅からバスで移動の予定です。

集合=10:00 JR小樽駅待合室

参加費=800円(予定)…バステ

〔藤の沢〕

平成6年1月23日(日)

白鳥園のエサ台に来るカラ類、カケス、アカゲラ等を真近に見ながら小沢さん(藤の沢小鳥の村の村長さん)の話の聞いたり、野鳥クイズなどを楽しみます。昼にはおいしいブタ汁が用意され、持ちよりのお酒を軽く飲みながら親睦を深めます。

集合=10:00 白鳥園(南区藤野693-1)

交通=定鉄バス、地下鉄真駒内駅発、藤の沢下車、徒歩20分

参加費=500円(予定)

〔野幌森林公園を歩きましょう〕

平成5年11月7日(日)

平成5年12月5日(日)

集合=9:00 大沢口駐車場入口

交通=夕鉄バス(文京台線)新さっぽろ駅発8:23

大沢公園入口下車、徒歩5分

○いずれの探鳥会も余程の悪天候でない限り行きます。

○昼食、雨具、観察用具、筆記用具をご持参下さい。

○交通機関は変更がありますので、利用される方は、各自で確認をお願い致します。

○探鳥会の問合せは、011-831-8636 戸津宅まで。

〔北海道野鳥愛護会〕年会費 1,500円(会計年度4月より) 郵便振替 小樽 1-18287

☎060 札幌市中央区北3条西11丁目 加森ビル5・6階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251-5465